

同じ釜の飯を食う 6月12日

中学校生活に欠かせないものとして、大人になってからもきっと懐かしく思い出すものの一つに、「給食の味」があります。カレーライスに、揚げパン、筑前煮、それからそれから…

今週からは、「午後にも授業で学校本格再開」ということで、3ヶ月ぶりに給食もスタートしました。

入学した1年生はもちろんのこと、進級した新しいクラスでの初めての給食。

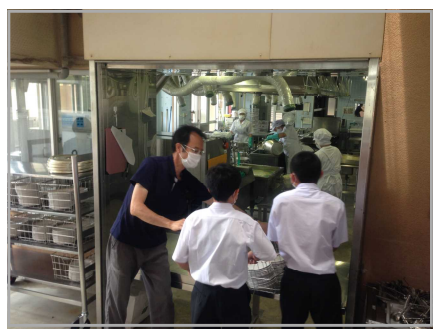
月曜日の牛丼に始まり、カレー、中華丼、肉じゃがと続き、デザートも、お祝いクレープから、冷凍パイ、ミックスマッシュにバナナコッタ…。



毎朝登校したらすぐ、教室に掲示された「献立表」を確認し、うきうきわくわくしながらの午前中…

4時間目の途中からはおなかが鳴って、今日のおかずが頭に浮かぶ。これもまた、今も昔も変わらない「健全な」中学生の姿です。

生徒のみなさん誰もが待ちわびた給食再開。コロナの時代の最初の一週間。より安全で、かつスムーズで、当然楽しいものにするために考えられた5日間の献立。いつもより20分長めに設定した給食時間(昼休み)に、手洗い、消毒、配膳、食事を、丁寧にゆったりと、会話は我慢しながらも、楽しむことができたでしょうか？



本当に久しぶりの給食が、以前のように毎日教室に届けられるようになって、給食調理員さんはもとより、生産者、食材納入業者、流通に関わる方々など、たくさんの方々による入念なチェックや細やかな配慮が積み重ねられていることも、今こそしっかりイメージして、「いただきます。」を言いたいものです。

日本には、「同じ釜^{かま}の飯^{めし}を食^くう」ということわざがあります。「いろいろな苦労を共にする親しい仲間」という意味なのですが、今週は津田中全員(生徒・先生)が、同じ釜からおいしい給食をいただきました。本当の意味で、学校が一つになって動き始めたことを実感でき嬉しくなりました。

私自身は、県庁(教育委員会)時代には口にすることができなかった給食。「やっぱり給食のカレーは違うなぁ〜」と、3年ぶりにしみじみ味わった後、思わず…

「ごちそうさまでした！」と、給食室の返却口に大きな声を掛けたのでした。

学校長